Keyword 自己決定、権限移譲、日本式経営

ワークモチベーション研究

商学部
経営・流通学科
准教授
菊池 英貴

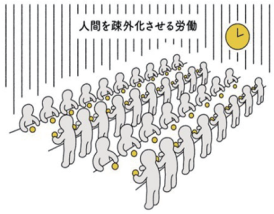
研究シーズの紹介

本研究は、従業員の能力を発揮するにはいかなる施策が効果的であるか、日本式の経営というものがあり、それが効果的であるかを究明しようとするものである。多くの経営理論は、米国でコンセプト化されたものが多い。しかし、それらの研究の源流に日本企業などの成果から理論構築されたものが多い。本研究では、諸外国研究者によって指摘された日本的経営と呼ばれたものではなく、日本式経営があるかどうかを検証するものである。ベルトコンベア生産をセル生産に変えることで大きな成果を出したのも日本企業である。日本において、少子高齢化や過疎化が進む中、働く現場の知を活かすことで、経営成果を上げている企業の取組みを研究している。

Point 職務の垂直的負荷

- 職務を各従業員に権限移譲することで能力発揮の機会が増える。
- 職務の垂直的負荷により職務満足と経営成績に効果的である。

近代は職業倫理の世俗化が進み



工場労働による人間疎外が社会問題化する

産業革命→工業化の進展→企業大規模化→科学的管理法→ベルトコンベアシステムなどの活用→人間疎外（マン・マシン・モデル等）の問題、市場環境の変化→組織メンバーの知恵を活かす仕組み→権限移譲、自己決定→知識創造

期待される活用シーン

- 意欲的に働く、積極的な参加 → 権限移譲、自己決定、管理される場面の減少
- 知識創造 → 組織メンバーの能力を活かすことで、職務満足の向上、経営成績の向上

その他の研究テーマ

・信仰と労働観